

**製品名: TAFI ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab18626**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	48kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CPB2
別名	CPB2; Carboxypeptidase B2; Carboxypeptidase U; CPU; Plasma carboxypeptidase B; pCPB; Thrombin-activable fibrinolysis inhibitor; TAFI
遺伝子 ID	1361.0
SwissProt ID	Q96IY4
免疫原	抗血清はヒト CPB2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 321-370

**背景**

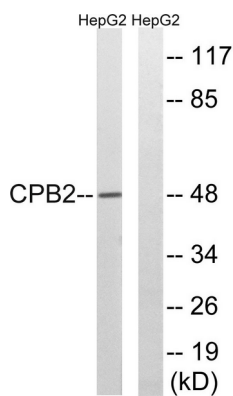
カルボキシペプチダーゼは C 末端ペプチド結合を加水分解する酵素です。カルボキシペプチダーゼファミリーには、メタロカルボキ

シペプチダーゼ、セリンカルボキシペプチダーゼ、システインカルボキシペプチダーゼが含まれます。これらの酵素は、基質特異性に応じて、カルボキシペプチダーゼ A (脂肪族残基を切断) またはカルボキシペプチダーゼ B (塩基性アミノ残基を切断) と呼ばれます。この遺伝子によってコードされるタンパク質はトリプシンによって活性化され、カルボキシペプチダーゼ B の基質に作用します。トロンビン活性化後、成熟タンパク質は線溶を抑制します。この遺伝子とそのプロモーター領域には多型が報告されています。選択的スプライシングによって、複数の転写産物バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2013 年 6 月],触媒活性: ポリペプチドから C 末端のアルギニンとリジンを遊離する。補因子: サブユニットあたり 1 個の亜鉛イオンに結合する。機能: 循環血中のキニンやアナフィラトキシンなどの生理活性ペプチドから C 末端のアルギニンまたはリジン残基を切断し、それらの活性を調節する。類似性: ペプチダーゼ M14 ファミリーに属する。組織特異性: 血漿、肝臓で合成される。、

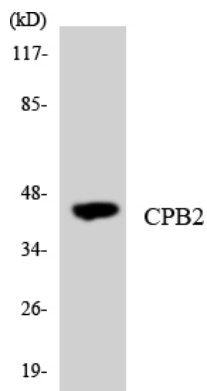
## 研究分野

補体と凝固カスケード;

## 画像データ



CPB2 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



CPB2 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。